

# FDKグループの価値創造アプローチ

FDKグループは、CSR基本方針にもとづく重点課題に継続して取り組むことによりグローバル企業として責任ある経営を推進し、これまで培ってきたコア技術をもとにした電池、蓄電システム製品、電子製品の開発・供給、バッテリーソリューションの提供を通じて、社会課題の解決に貢献するFDKグループならではの価値をステークホルダーの皆様に提供してまいります。



# FDKとステークホルダー

FDKグループの製品は、家庭や職場など人々の身近な暮らしに密着した様々な機器に使われています。社会インフラを支える機器や車、また医療・福祉の現場で活躍する様々な機器にも使われていて、人々の安全・安心な暮らしに貢献しています。また、省エネルギーや環境負荷低減に貢献する環境配慮型製品も数多く提供し、スマートエナジーパートナーとして持続可能な社会の発展に寄与しています。

## 社会インフラ・ビジネスで!

- エレベータ
- 緊急対策自販機
- 複合機(コピー・ファクス)
- 蓄電システム
- マウス
- パソコン
- 非常用照明
- センサー
- 通信基地局
- データセンター



### Output

- アルカリ乾電池
- ニッケル水素電池
- リチウム電池
- 蓄電システム
- DC-DCパワーモジュール
- トナー
- など

## 医療・福祉の現場で!

- ベッドサイドモニタ
- 輸液ポンプ
- 電動車いす



### Output

- アルカリ乾電池
- ニッケル水素電池
- リチウム電池
- など

## ご家庭で!

- 煙探知機
- スマートメータ
- 携帯アンテナ基地局
- LED照明
- 自動車
- コードレス電話
- 玩具
- スマートフォン充電器
- クレジットカード
- 腕時計
- リモコン
- 液晶ディスプレイ
- 美容・健康機器
- 懐中電灯

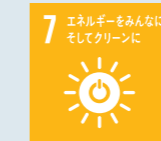


### Output

- アルカリ乾電池
- ニッケル水素電池
- リチウム電池
- 液晶ディスプレイ用信号処理モジュール
- など

## FDKグループの注力するSDGs

## ステークホルダー



- エネルギー消費革新
- 蓄電、消費効率改善



- 新規技術・プロセス革新
- 省資源、省エネルギー



- 製造業としての品質
- リサイクルプロセス革新
- 省資源、廃棄、排出削減



- CO<sub>2</sub>削減
- 災害対策
- 防災、減災対策

お取引先

社員

お客様

株主・投資家

国際社会・地域社会

FDKグループのビジョンは「お客様に電気エネルギーを安心して効率的に活用いただき、持続可能な社会の実現と発展に貢献」することです。FDKグループは保有する技術により提供する電池製品、蓄電システム製品、電子製品およびそれらの生産プロセスを通じて、再生可能エネルギー活用による蓄電、消費エネルギー効率の改善、資源利用効率の向上、CO<sub>2</sub>排出削減などの環境保全、インフラの改善、セキュリティ対策強化などに貢献しています。FDKグループの現有技術や製品により解決に貢献している社会課題、また今後の新たな事業施策や取り組みによる貢献の可能性も含めて、上記の4つをFDKグループの注力するSDGsとして決めました。

FDKは主要なステークホルダーをお客様、社員、お取引先、株主・投資家、国際社会・地域社会ととらえています。事業を通じてステークホルダーの皆様への価値提供を続け、持続可能な社会の発展に貢献します。

# CSR マネジメント

FDKグループにとってのCSRは、FDK企業行動指針と富士通グループの一員としてのFUJITSU Wayの実践を通じて、様々な社会課題の解決に取り組み、地球と社会の持続可能な発展に貢献していくことです。

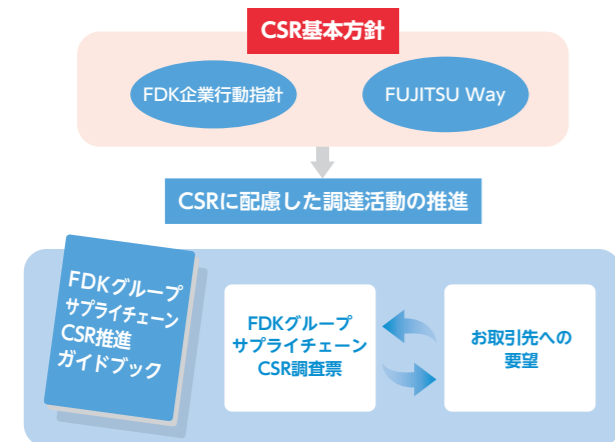
## FDKグループCSR基本方針

- FDKグループのCSR基本方針は、FDKグループで働くすべての人が積極的に実践すべき内容を示した「FDK企業行動指針」および富士通グループの一員としてのグループ理念である「FUJITSU Way」を実践することです。
- 我々は、「お客様にご満足いただける電池、電子製品の開発・供給により3E社会（環境保全・省エネルギー・経済発展）の実現に寄与し、様々な形で社会に貢献できるスマートエナジーパートナーを目指す。」という方針のもと、すべての事業活動において、マルチステークホルダーの期待と要請を踏まえ「FDK企業行動指針」および「FUJITSU Way」を実践することにより、地球と社会の持続可能な発展に貢献してまいります。
- CSRの実践にあたっては、7つの課題に重点的に取り組みます。
- これらの課題への対応を通じて、グローバル企業として責任ある経営を推進します。

## CSRに配慮した調達活動

FDKグループは、「FDKグループCSR基本方針」、「FDK企業行動指針」および「FUJITSU Way」にもとづき、お取引先とともに、CSRに配慮した調達活動を推進していくための指針として「FDKグループサプライチェーンCSR推進ガイドブック」をまとめました。

本指針を遵守した調達活動をするとともに、サプライチェーンを構成するお取引先にも同様に本指針の遵守をお願いしています。



## CSR活動推進体制

FDKグループのCSR活動の基軸となる「FDK企業行動指針」および「FUJITSU Way」の浸透、定着をいっそう推進するため、FDKではCSR推進委員会を設置しています。

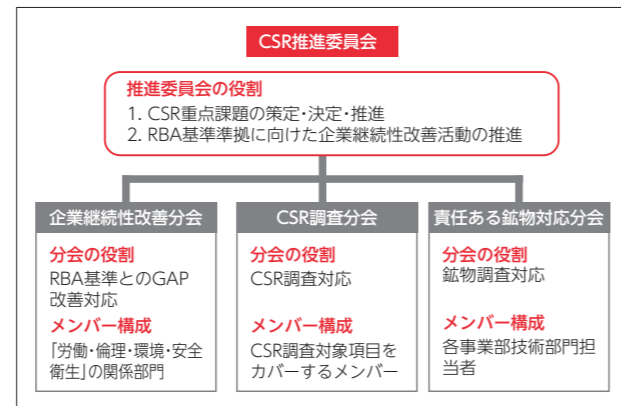
CSR推進委員会は、FDKグループの横断的なCSRマネジメント推進のため取締役（コーポレート担当）を委員長、CSR・コンプライアンス統括部を事務局とし、7つの重点課題の取り組み状況の確認、CSRに関連した情報や取り組みの確認などにより持続可能な社会とビジネスの在り方などについて定期的なレビューを行なっています。

国際的なCSR規範であるRBA（責任ある企業同盟: Responsible Business Alliance）への準拠推進やお客様からのCSRに関する調査・要請への適確な対応、鉱物調達\*の適切なマネジメントを目的とした3つの分会組織を設け活動しています。またFDKグループのCSR基本方針、重点課題・施策、活動実績などを掲載し、方針、状況、課題の社内共有を目的とした社内ホームページを設けています。

\*その採掘や取引が武装集団の資金源となり紛争を助長している、あるいは、人権侵害、労働問題などと密接に関連している鉱物。

2010年7月に米国で成立した「金融規制改革法」においては、コンゴ民主共和国および隣接国において産出される鉱物のうち、タンタル、錫、金、タングステン、その他国務省が判断する鉱物を紛争鉱物として、米国上場企業に対し、紛争鉱物を使用する場合の米国証券取引委員会（SEC）への報告義務などが定められた。なお、FDKでは2019年度より、従来の紛争鉱物にコバルトを加えた高リスク鉱物に対する「責任ある鉱物調達」に取り組んでいます。

## CSR推進体制図

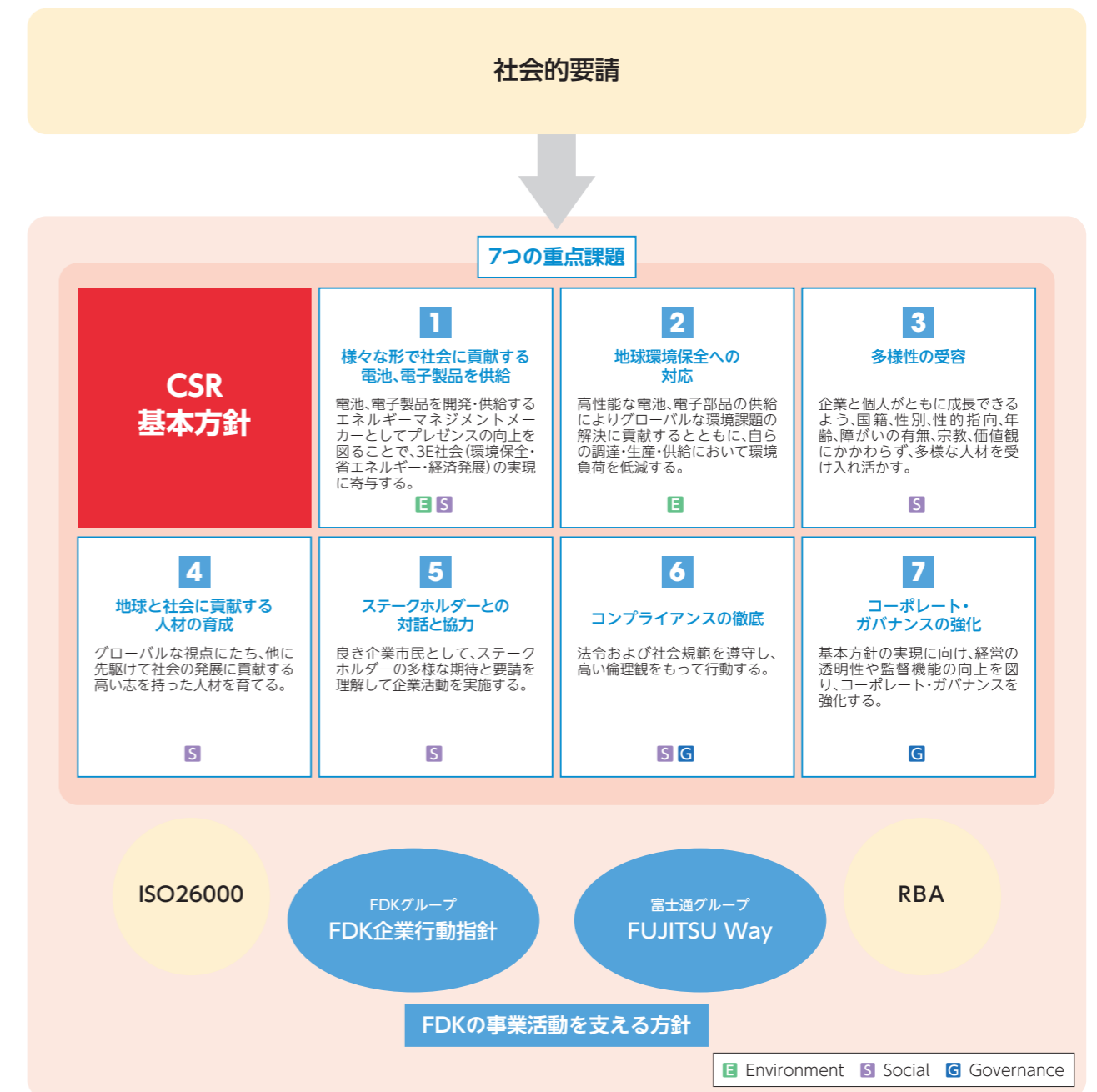


## FDKグループの7つの重点課題の位置づけ

FDKグループはCSR基本方針の実践にあたって7つの重点課題を設定しています。これらの重点課題は社会的な要請への対応や責任ある経営を推進するために、重要度、優先度を多角的に検討し設定しました。重点課題の実践を通じてステークホルダーに価値を提供し、FDKグループのビジョンの実現に取り組んでいます。

FDKグループはCSR基本方針の実践にあたって7つの重点課題を設定しています。これらの重点課題は社会的な要請への対応や責任ある経営を推進するために、重要度、優先度を多角的に検討し設定しました。重点課題の実践を通じてステークホルダーに価値を提供し、FDKグループのビジョンの実現に取り組んでいます。

CSRマネジメント活動として、ISO26000の中核課題やRBAの対象領域における規範への準拠活動を進め、経営品質の向上を図っています。



# 7つの重点課題

FDKグループは、7つの重点課題に沿ったCSR活動を推進しています。この重点課題は、FDKグループの事業を通じての社会貢献と、ISO26000の中核課題やRBAや重点領域において求められる事項に積極的に取り組み、グローバル企業として責任ある経営を推進することを目的とし、重点課題として次のとおり設定し取り組んでいます。

重点課題	あるべき姿	重点施策	2018年度の取り組み		ISO 26000	参照
			目標	実績		
<b>1 様々な形で社会に貢献する電池、電子製品の供給</b> 様々な形で社会に貢献できるスマートエナジーパートナーを目指し、お客様にご満足いただける電池、電子製品を開発し供給する。	保有技術を活かした市場ニーズに応える製品開発と供給を継続的に進め、環境変化に柔軟に対応することで、お客様に満足いただける信頼がおけるスマートエナジーパートナーとして認知される。	<製品> 差別化技術から生み出した新たな付加価値を提供する製品の開発促進 <取り組み> ●素材を活かした製品を提供し続けることで、未来を育む企業としての価値を向上 ●SDGsの達成に向けた社会課題解決型の製品やビジネスの拡充	<製品> ●市場ニーズに応える価値ある製品を成長が見込まれるインダストリアル市場に向けて継続的に投入 ●電池・電子の保有技術を活用し、市場ニーズに応える製品を市場投入 <取り組み> ●市場リサーチの強化を進め、お客様や市場の動向を迅速に探知し、ニーズに即した技術開発提案の実現	<製品> ●家電市場向けに、安全性や保存性能を改善したより安全・安心な電池製品やコストダウンモデル、環境に配慮したパッケージを使用した電池製品の開発、供給を行なった。 インフラ市場向けには、車載、防災/セキュリティ、スマートメータ、バックアップ電源用途などに、お客様の要望や環境課題に対応した電池製品の開発、供給を行なった。 ●電子製品では、お客様の消費電力の低減や小型軽量化に貢献するコンポーネント製品、モジュール製品の開発を行なった。 ●SMD対応小型全固体電池の開発とサンプル出荷し、お客様や社会の課題解決に貢献する次世代電池の量産化に向けた取り組みを推進。また、社会インフラでの活躍が将来的に期待される水素/空気二次電池の開発に向けた取り組みを開始		P19~P22
<b>2 地球環境保全への対応</b> 高性能な電池、電子製品の供給によりグローバルな環境課題の解決に貢献するとともに、自らの調達・生産・供給において環境負荷を低減する。	環境問題を常に意識し、グリーンエコノミー時代の実現に向けての製品提供により社会全体の環境負荷・環境リスク低減に積極的に取り組んでいる。 ●地球温暖化防止のため工場や事務所での省エネルギー対策や物流改善の推進などに取り組む。 ●3R(リデュース、リユース、リサイクル)活動により環境負荷を低減する。	<お客様の環境負荷低減> ライフサイクルを考慮した環境配慮製品開発の推進(省エネルギー製品、省資源効率製品) <自らの環境負荷低減> ●エネルギー消費CO <sub>2</sub> 排出量の削減 ●廃棄物発生量の削減 ●化学物質発生量の削減	<環境配慮製品の開発> ●エネルギー効率改善に寄与する製品 各拠点1件/年以上 ●資源効率改善に寄与する製品 各拠点1件/年以上 <エネルギー消費CO <sub>2</sub> 排出量削減> ●エネルギー消費CO <sub>2</sub> 排出量を国内FDKグループ全体で46,169t以下に抑える ●エネルギー消費原単位を各拠点年平均1%改善 <廃棄物発生量の削減> ●廃棄物発生量原単位を各拠点2015年度比3%改善 <化学物質排出量の削減> ●PRTR対象物質排出量原単位を各拠点2015年度比3%改善	<結果> ●製品開発は、目標達成 ●CO <sub>2</sub> 排出量削減は、目標達成 特、FDKエンジニアリングでは新棟の省エネ効果でCO <sub>2</sub> 量36%削減 <課題> ●目標設定の精度向上(予算の精度)、適切な原単位設定、さらなる省エネ対策		P29~P32
<b>3 多様性の受容</b> 企業と個人がともに成長できるよう、国籍、性別、性的指向、年齢、障がいの有無、宗教、価値観にかかわらず、多様な人材を受け入れ活かす。	FDKグループで働くすべての人が、あらゆる差別*を排除し、多様な人材を受け入れ、それらの行動を実践している。 *国籍、人種、性別、宗教、信条、社会的身分、出身地、障がい、性的指向などによる不当な差別やセクシャルハラスメント、精神的もしくは肉体的な暴力などによる人権侵害	●すべての人が働きやすい職場環境の整備 ●人事・処遇制度の改善 ●研修、セミナーによる啓発活動の充実	●働き方改革への意識醸成 ●フレックス、時差勤務、テレワーク、在宅勤務などの拡充と導入検討 ●介護社員、障がい者、LGBTの理解促進に向けた啓蒙活動 ●障がい者、LGBTに対応した働きやすい職場環境の検討 ●幹部社員(職場マネジメント)セミナーの継続開催 ●主任社員へのセミナー開催 ●シニア社員向けライフプランセミナーの開催 ●次世代リーダー育成研修の開催 ●男性の育児休業取得率アップに向けた推進 ●行動計画の実行(女性の意識改革と監督職の増員)	●フレックスに関するアンケートを実施し、2019年4月に国内グループ会社で開始 ●有休取得率向上を目的に、2019年度から有休取得促進日を1日増加することを労使間で合意し、また年間の稼働カレンダーを長期連休の期間を従来より長くした。 ●障がい者雇用・近隣の特別支援学校から雇用するための取り組みを開始。 ●働きやすい環境整備のための各事業所の設備調査にもとづき、各事業所に多目的トイレを設置予定 ●規程の見直し・同性パートナーへの社内制度適用に向けて、人権週間の取り組みの中でLGBTに関する研修、リーフレットの配布を実施。 ●キャリアデザイン研修を2019年1月に開催 ●2018年12月までに各事業所にて開催 ●2018年7月、8月、9月に次世代リーダー育成研修を開催 ●女性のキャリアアップ研修を11月に実施		P25~P28
<b>4 地球と社会に貢献する人材の育成</b> グローバルな視点に立ち、他に先駆けて社会の発展に貢献する高い志を持った人材を育てる。	長期的視点に立ち、ビジネスを通じてグローバルに活躍できる人材を育成している。	●ビジネスを通じて地域・社会に貢献する人材の育成システム充実 ●地域・社会とのつながりによるコミュニケーション力の育成	<FDKグループ人材育成計画(3年目)の実行> ●既存研修のブラッシュアップ ●教育計画の可視化および共有化 ●研修カリキュラムのブラッシュアップ ●研修プログラムのブラッシュアップ <次世代ビジネスリーダー・プロフェッショナル人材の育成> ●リーダーシップ研修を開催 <グローバル採用に向けた企画と施策の検討> <グローバル人材の育成を目的としたセミナーの開催> ●異文化理解を深める研修を開催	●教育計画を作成し、実績を社内で共有化 ●2018年7月、8月、9月にリーダーシップ研修を開催 ●異文化セミナーを2018年7月、2019年2月に開催		P25~P28
<b>5 ステークホルダーとの対話と協力</b> 良い企業市民として、ステークホルダーの多様な期待と要請を理解して企業活動を実施する。	公開すべき情報を的確に開示し、ステークホルダーとの対話を行ない、事業活動への反映を通じて社会に貢献する企業活動を継続的に進めている。	<ステークホルダーとの対話機会の充実と要請事項への的確な対応> ●CSR報告書の発行 ●お客様:情報提供要請に対する適切な情報開示 ●株主、投資家:株主総会、IRミーティング、ホームページ上の情報開示、経営方針・決算説明会など対話の実行に向けた検討 ●取引先:双方向コミュニケーションの充実 ●従業員:労使対話、満足度調査、経営トップとの対話 ●地域社会:地域住民への社会貢献活動(地域住民交流会、清掃活動、工場見学、乾電池教室など)	●CSR報告書の発行 ●お客様:情報提供要請に対する適切な情報開示 ●株主、投資家:株主総会、IRミーティング、ホームページ上の情報開示、経営方針・決算説明会など対話の実行に向けた検討 ●取引先:双方向コミュニケーションの充実 ●従業員:労使対話、満足度調査、経営トップとの対話、リスクマネジメント推進 ●地域社会:地域住民などへの社会貢献活動	●CSRレポート(2018)を2018年9月に日本語版発行。同11月に英語版発行 取引先などからの評価、従業員研修でのアンケートを実施 ●適時開示を継続的に実施 ●投資家・株主との対話:179件、顧客からのCSR/紛争植物調査対応:241件、リスクに関する外部からの問い合わせ対応:15件 ●[FDKグループサプライチェーンCSR調査]を主要取引先に展開、フィードバック実施 ●労使連絡会は毎月開催 人事ホットラインへの相談3件すべてに対応 ●各事業所にて地域貢献活動を実施		P23 P24
<b>6 コンプライアンスの徹底</b> 法令および社会規範を遵守し、高い倫理観をもって行動する。	経営者および全従業員が常に法令および社会的規範を遵守した行動をし、また新規・改正情報も迅速に認識、対応できている。	●企業継続性改善活動拡充(評価・改善、教育など) ●コンプライアンス関連規定の整備 ●教育プログラムの策定、実施(行動指針、企業倫理面の海外拠点展開を含む) ●モニタリング強化 ●新規、改正法令情報の的確な取得と反映	●コンプライアンス関連規定の整備 ●教育プログラムの策定、実施(行動指針、企業倫理面の海外拠点展開を含む) ●モニタリング強化 ●新規、改正法令情報の的確な取得と反映	●コンプライアンス関連規定の整備 全社規定の制定/改廃実績(制定4件、改定91件、廃止49件) ●教育プログラムの策定、実施 ●コンプライアンス教育の実施 ●e-Learning 延べ受講者数 5,436名 ●随時研修での教育実施(マネジメント研修、新任部長研修、中堅社員研修、新入社員研修) ●輸出管理教育の継続実施 ●下請法講習会の継続開催 ●モニタリング強化 ●内部通報受付:3件 ●新規、改正法令情報の的確な取得と反映 ●法令改正情報などをまとめた社内向け業務ニュースの発行10回 ●輸出管理:懸念顧客のスクリーニングツールとして、Chaser Listを導入		P15~P18
<b>7 コーポレート・ガバナンスの強化</b> 基本方針の実現に向け、経営の透明性や監督機能の向上を図り、コーポレート・ガバナンスを強化する。	経営者はコーポレート・ガバナンスの本質をよく理解し、必要に応じた経営体制の見直し、組織の整備などを実施している。	●取締役会の監督機能が十分にあり、監督と業務執行が分離され、的確な意思決定が行なわれる機関設計の検討 ●取締役会の実効性の維持、向上を目的とした取締役会の評価(自己評価と外部機関による検証、継続的改善)およびトレーニングの実施	●監査等委員会による社外取締役との円滑な情報共有と高い監査・監督の継続 ●取締役の取締役会の自己評価とトレーニングの継続 ●執行役員による上記トレーニングへの参加	●監査等委員会において、2018年度監査方針および計画、往査結果を報告 ●会計監理人から連結財務諸表監査に対するレビュー結果を共有 ●監査部からの監査計画、結果報告 ●2019年3月取締役会の自己評価および取締役会のトレーニングを実施 テーマ:会社役員の義務と責任、経営戦略と経営管理(執行役員もトレーニングに参加)		P15~P18

# 安全・安心で環境に配慮した製品をご提供するために



FDKは事業活動の全プロセス(バリューチェーン)において、お客様に安全・安心で環境にやさしい製品をご提供する取り組みを社内で連携のもと進めています。またその前提として、自社内での環境の取り組みやコンプライアンスを徹底して経営品質を高めることが重要であると認識しています。当社のお取引先との連携を含めた活動を推進し、お客様にとって価値のある製品とサービスの提供に取り組んでまいります。



## 品質保証



## 方針

品質憲章に「お客様の信頼に応える品質の提供」を掲げ、FDK企業行動指針、FUJITSU Wayにもとづき、事業活動のあらゆる面で製品・サービスの品質・安全確保の努力を継続し、お客様・社会とともに豊かな未来を創造していくことで、企業価値向上に努めています。次の7つの指針に則り、品質・安全を追求し実現していきます。1.お客様起点での品質追求、2.変化を先取りした品質づくり、3.社会的責任を果たす品質の確保、4.三現主義(現場、現物、現実)による継続的改善、5.ビジネスパートナーと連携した品質向上、6.品質情報の公開と対応、7.品質を考える人づくり。

## 方針実現に向けた取り組み

- QMS(Quality Management System)による、製品企画から製造・出荷・アフターサービスに至る各ステップでの品質保証活動
- PDCA(Plan Do Check Action)サイクルによる継続的改善
- 全事業部との定期打合せによる情報共有、品質目標策定と監視、コンプライアンスに関わる問題や品質トラブル発生時のエスカレーション、人材教育、不具合事例やノウハウなどの水平展開
- 全社品質管理委員会の活動による、製品枠を超えた経営面からのアプローチ